

# つくしだより



平成27年9月号

杉並家族会による区内民生委員協議会へ訪問記

「民生委員」身近なようで直接の関わりがないまま過ぎていたこれまでも

杉並家族会幹事 島本禎子

★私たち家族会が民生委員協議会を訪問するきっかけとなった一家族会のお話

一年ほど前に民生委員になっていったOさんが「民生委員をしてみると、自宅の極近いところに、自分の息子と同じように悩んでいる人たちが何人もいることが分かった！息子のことでそうした問題を抱えている人や家族に声掛けすることのために、早く、又もつと早く家族会のこと等お伝え出来ていたら、その中の一人の娘さんは命を落とされることもなかったのかも・・・という残念な事実も経験した。精神疾患は一般の方たちにはまだまだ理解し難いものであるのが現実です」と一気に話された。当然のことだろう！と納得。Oさんに「あなたの地区の民生委員の方たちに精神疾患について説明に伺わせてください！」とお願いをしたのは言うまでもなく、その意義を共有できたOさんはその地区の民生委員長Bさんに早

速相談をしてくれたのです。

★理解を示してすぐに動いてくれた民生委員長Bさん

ところがそのB会長さんは自分たちの地区だけでなく区内全域の会長会議で議題にしてください、その後Oさんから連絡があった時は「区内全部の13か所の地域に出かけて家族会や精神障害のことについて説明してください」と、思いがけない進展になりました。家族会として手の届かない部分で民生委員諸氏のお力もお借りできるようになるかもしれない！少なくとも民生委員の方がたに家族会のことをお伝えしたい！！

★初期の対応がこの病には肝心なのです！・・・伝えたかった大きな事柄の一つ

訪問に際して準備したものは「杉並家族会からの「ご挨拶」と「家族会のパンフレット」

ご挨拶文には、家族会の簡単な歴史や会員・家族の抱えている問題や悩み、また今後地域で生活するのに必要とされている課題、又社会全体のためにも、まだどこにも相談できないで過ごされている悩める人々のより早い救

済を！それには地域で広くかつ細部にまで分け入って活動されている民生委員の皆さまのご協力やご理解の必要な点」をしたためました。

★民生委員協議会13カ所を訪問して感じた「杉並区の広さ」

いずれの委員会でも会長さん始め委員の方たちが関心をもって迎えてくださり説明が終わると決まって質問が出ました。担当地域で明らかに精神的問題を抱えている人の具体的例の他、時にはその対応方法には即答の難しいものが多々あり、とにかくそうした方にパンフレットを基に専門的知識のある第三者に相談するきっかけを投げかけてあげること、民生委員さんには橋渡しの役を広げてほしいことをお話ししました。気持ちが塞いでいる時、誰の顔も見ることが出来なかった過去の自分が思い出され、その大事な時期、特に初期の接触や支援にはまた別の切り口からの方法も思案しなくてはいけないことが頭をかすめました。とにかくこれまで距離のあった民生委員の方たちとの繋がった関係を有効活用につなげたいものです。



「みんなねっと関東ブロック大会 in 東京」を成功させて、当事者・家族支援の更なる向上を東京からつくりましよう！

関東ブロック大会準備委員会 植松和光

関東ブロック大会 in 東京の当日のプログラム内容が決まりました。どうぞ、ご期待ください。

### 第一部講演のクッキングハウス会理事長

松浦幸子氏には「精神障がい者と家族が安心して地域で暮らすために必要な支援とは」をクッキングハウス 28年の実践から話していただきます。支援力は環境力です。支援力が幅広く豊かにふくらむことは、誰にとっても生きやすい社会環境になっていくということとを皆さんに伝えたいと言っています。

### 第二部シンポジウムは「精神障がい者を支援する中から見えてくるもの」をテーマに行います。

シンポジストの多摩草むらの会理事 長風間美代子氏には会の名称の由来でもある精神障がい者が社会に出るために必要な、安心できる草むら作りがとて大事であることを中心に会の事業活動を話していただけるようです。また、当事者であり、江戸川区地域活動センターはるえ野センター長の増川ねてる氏には、気が付けば、病気になる

てからの人生の方が長くなりました。病気になることから気づけたこともたくさんあります。当事者のそんな思いを皆さんに語りたいとしています。さらに、中央区活動センターに通所する保田佳江氏には、地域との関わりや闘病中の工夫など、自分が経験したことや現在の状況について話していただけます。

同じくシンポジストのひだクリニック副院長 木村尚美氏には、シンポジウムでは、「将来」ではなく「今出来ること」の取組みとして「ひとり暮らし」を考えてみたい。今回は、7年前より取り組んできた「ひとり暮らし」を目指す目的、当事者、家族のニーズを探り、そのために必要なことを考えたいと思う、と意気込みを語ってくれました。

### 当事者・家族会の皆様・関係者の皆様へ

#### 関東ブロック大会に是非ご参加下さい！

この大会は、関東1都6県の家族や医療・福祉関係者、行政機関の方が一同に会し、日頃の活動や当面する課題について学びあう場でありとても有意義な大会です。一人でも多くの家族や関係者の皆様が参加されることをお願いいたします。

既に、案内チラシやホームページで参加申し込み方法等についてはお知らせしておりますが、あらためてご案内いたします

#### ▲参加申し込み方法

\* 郵送または FAX

お名前、住所、所属（家族会名など）、参加者の種別（当事者・家族・支援者・行政・学生・その他）を書いてください。

◎ 郵送

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1-301 東京つくし会あて

◎ ファックス 03(3304)1334

※水曜日を除く

\* Eメール

Kanbur02015@yahoo.co.jp

#### ▲開催日時・会場のご案内

\* 開催日時 10月16日（金）

午前10時30分～午後3時45分

会場は有楽町朝日ホールです

JR、東京メトロ有楽町駅徒歩1～2分

当日は、会場周辺にピンクの帽子と上着のスタッフがいますので声をかけてください。詳細はホームページ「東京つくし会」を検索してください。



## 足立区のオリープ会の例会に参加して

都連副会長 川崎洋子

この会は、北千住クリニックスの家族会です。例会は、クリニックスの一室で行われました。事前に小川会長から、「いま国で行われている障害者制度改革の現状と精神障害者とその家族の状況はかわるか」を話してほしいという私たちの関心の深いことでした。

国の現状としましては、国連の障害者権利条約が批准され、それにもない国内でもあたらしく制定されました障害者差別解消法が来春より実施されることに成り、何かよい方向が見えてきた感はしますが、実態はどうでしょうか。これからの進展に目が離せないことと、まだまだ差別に対する要望活動は続けることの必要をみなさんと共有できたことは、うれしいことでした。

例会当日はとても暑い日でしたが、18名近くの方が集まってくださいました。中でもお父さんが3名も出てくださいました。どの会でも例会参加者はほとんどお母さんですが、この日は日頃あまり参加されていないお父さんお話をきくことができましたが、その内容に心打たれるものがありました。

本人の病気の発症時期は父親は仕事を抱え、どうしても本人の世話は母親になりがち

です。母親がいろいろな悩み、苦勞しているの  
に手助けする余裕もなく、また、本人の気持ち  
を理解する時間も持てなかったのが実情  
だと思っています。

3名のお父さんが異口同音に母親任せに  
していたことを申し訳なかったと話された  
のです。今まで面と向かって話せなかったこ  
とでしょう。聞くお母さんは涙をうかべてい  
ました。一時、やすらかなおだやかな時が流  
れました。お父さんの気持ちが理解できて、  
これからは一緒に本人を支えていけると、お  
母さんたちを元気にしたひとときでした。

## 昭島市の家族会を訪ねて

都連理事 中住孝典

7月23日に青梅家族会のご家族2名と  
私とで参加させていただきました。昭島の家  
族会は正式には「昭島家族の集い(通称アツ  
トホーム・歩歩(ほほ)」といます。以前  
から家族会はあったようですが高齢化した  
ため、市の保健師さん、きょうされん虹のセ  
ンター、市の障がい者相談支援センター、ゆ  
いのもり福祉協会など多くの地域支援機関  
がバックアップし、平成19年10月に今の  
「昭島家族の集い」として生まれ変わりました。  
現在25世帯の家族が会員として毎月第  
4木曜日に昭島の保健福祉センターを会場

とし、愛すべき当事者のため「よき理解者で、  
かつ最大の支援者」になることを願いながら  
活動をしています。代表は池田正さんで(精  
神の作業所などを運営している社会福祉法  
人・ゆいのもり福祉協会の理事長も務めてお  
られます)明るくさわやか、そしてパワフル  
な方です。私達を明るく迎え入れてくれ、と  
ても入りやすい雰囲気でした。今回は30名  
ほどの交流会で20名は家族の方、10名は  
支援機関の方々に、家族会の雰囲気も明るく、  
家族会が地域の支援機関と繋がりが、連携がで  
きているといった印象を受けました。青梅の  
家族会からも会発足の経緯や家族会に対す  
る家族の声(家族会ができて良かった、家族  
同士でなければ分かりあえない気持ちの共  
有ができ支えになる、学習ができて前向きに  
なれる等)が紹介され、家族会の意義を再確  
認したり、各家族が日常の様子などを話し、  
和やかな交流の場となりました。精神保健福  
祉の状況は私達にとって追い風となってお  
り、これからも皆の繋がりと地域的な交流、  
声を出すことを大事にしていくことを確認  
できた交流会でした。地域は違っても同じ思  
いで家族は繋がっている、この思いを大切に  
し活動していきたいものです。最後にゆいの  
もり作業所で作っているパンをお土産にい  
ただきました。ありがとうございました。

## 平成27年度第1回西ブロック会議

都連理事 松原のり子

気温36度のうだるような暑さの7月25日の午後、高円寺障害者交流館にて、会員24名、都連理事5名の参加を得て、西ブロック会議が開かれました。高円寺駅から会場までの徒歩10分の長かったこと！

前半は、①当面のつくし会の動きについて、②西ブロックホームページの一時中止のいきさつ、③都連の名称変更、④交通運賃割引の署名、⑤東京都への要望書提出の経過など、理事より説明がありました。

後半は、各家族会が抱える高齢化問題や、若い会員をどう増やすか、そして各区に対する要望についてなどの難問を終了時間を超えて話し合いました。

つばさ会は大田区4家族会を統括している会ですが、ユニークなのは大田区が飲料自動販売機の売上金より利益分をつばさ会に助成するという方法です。また、豊島家族会からは新規入会者が増えているとの明るい報告もありました。

ブロック会議が始まって6年、11家族会の特徴ある活動の様子が生き生きと語られるようになってきました。これからも個性あふれる楽しいブロック会議にしたいです。

### ☆賛助会員（敬称略）

高円寺クリニック	5000円
石川クリニック	5000円
にしの木クリニック	5000円
杉山クリニック	5000円
つのおクリニック	5000円
伊勢田 堯	4000円

ありがとうございます。

## 講演会のお知らせ

- ☆9/26(土) 開かれた対話による治療 フィンランドのオープンダイアローグ  
講師：NPO法人リカバリーサポートセンターACTIPS 訪問看護ステーションACT-J所長 下平 美智代氏 主催：世田谷さくら会 ☎03-3308-1679
  - ☆10/10(土) 若者のためのデイケア・イル ポスコ  
講師：東邦大学医学部精神神経医学講座教授 水野 雅文氏  
主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788
  - ☆10/10(土) 大人の発達障害 講師：冠地 情氏 東京都成人発達障害当事者会「イトコサガシ」代表 主催：西多摩虹の会 ☎090-1882-0306
  - ☆10/24(土) 本人と家族が地域で安心して生活するために～自己決定を大切に  
した訪問支援とは～ 講師：精神科医 白石 弘巳氏  
主催：杉並家族会 問合せ：あおば福祉会リブレ ☎03-3392-7946
  - ☆10/24(土) 障害者権利条約と意思決定支援 講師：日本自閉症協会常任理事  
柴田 洋弥氏 主催：立川麦の会 ☎042-507-6015
- ※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

## 編集後記

長い猛暑が過ぎたと思っただら秋雨前線という事でスッキリしない天気が続きます。これじゃ身体がもちませんね。でも皆さん、身体だけは気をつけましょうね。元氣なら何事も何とかなります。さて私ごとになりますが約35年務めた精神科病院を辞め、9月からは正式に地域で障害者の方々の生活支援の仕事に打ち込むことにしました。色々考えた末のことです。西多摩の地域は精神科病院は数多くありますが地域の社会資源は決して多いとはいえません。病院には数多くの長期で入院されている方々もいます。もっとも地域に多くの生活支援をおこなうネットワークや資源そのものを増やさなければ結局は生活する場がないのだから仕方ないという論法で生活丸抱えの精神科病院の機能はなくなりません。人は少しでも地域で生活を送り地域で余生を終えるのが本来の姿、家族も安心して任せられる、協力できる、そんな地域力を皆で協力して作り広げていきたいという思いに駆られます。精神科病院で年をとり亡くなっていくとしたらそれはあまりにも悲しい出来事です。微力ですが多くのご家族や当事者の方々と、できるだけ共にを大切に笑いながら悩んでいきたいものです。

都連理事 中住孝典

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。